

四月定例教育委員会を開催

昭和五十四年度四月の定例教育委員会は、四月十三日に開催された。

内容

■議案

- 第一号 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与条例施行規則の一部改正について。

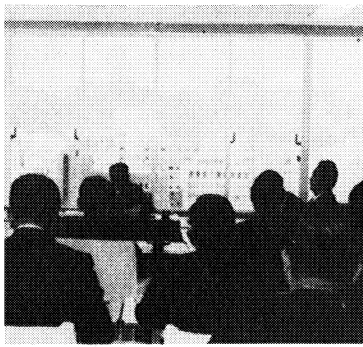
■教育長報告事項

- 第一号 市町村教育委員会教育長の任命承認について。
 第二号 教育庁事務職員等の退職勧奨状況について。
 第三号 公立小・中・養護学校教職員の退職勧奨状況につ

教育長記者発表―54高校入試

農業・水産学科に推薦入学を導入

本年度最初の教育長記者発表は、四月十七日教育委員室で行われた。まず競争率関係では、全日制定員二万五千



教育委員会風景

二百十一名のうち推薦合格者数二百二十七名と欠席者数五百二十二名を差し引くと実受験者数は二万五千九百九十五名で実質一・〇四倍（昨年一・〇六倍）、定時制は、定員八百二十名に対し、三百名の受験で〇・三七倍（昨年定員八百六十名、〇・三倍）。推薦選抜は、定員四百名に対し、三百九十三名の志願者があり、〇・九八倍であった。このことから、高校進学率は、私学分を含め、およそ九十一パーセントを越すものと考えられる。

次に、成績面をみると、二百五十点満点中、合格者平均点は百五十三・二点の高得点で、これは昨年比七・三ポイントのアップとなった。このことは、中学校進路指導の徹底と、入試問題が中学校で学習した基本・基礎的内容に力点がかけられ、質量ともに適切であったところの原因を求めることができよう。満点得点者は、県下で一名、各教科別の平均点は、五十点満点中、国語三十三・六点、社会三十一・五点、数学二十六・一点、理科三十二・二点、英語三十一・二点であった。このように、全体的には高得点者が増え、低得点者が減ったことが特徴的だが、各問正答率の分析結果をみると、基本・基礎的

五十四年栄えある春の叙勲者

- 学校教育関係
- ◆ 勲四等瑞宝章
 - 押切 良純（元安達高等学校校長）
 - 郡山市鶴見坦二丁目二〇の七
- ◆ 勲五等瑞宝章
 - 添田亥之吉（元白河中央中学校長）
 - 東京都墨田区両国一丁目五番五号
- ◆ 勲四等瑞宝章
 - 松崎 友文（元平商業高等学校校長）
 - 相模原市相武台二丁目二三の四
- ◆ 勲五等双光旭日章
 - 相田 義男（現福島女子短大教授）
 - 会津若松市城西町三番十七号
- ◆ 勲四等旭日小綬章
 - 塚越 弘平（元内郷高等学校校長）
 - いわき市内郷御廐町下宿七四の三
- ◆ 勲五等双光旭日章
 - 竹岡 伝（元勿来市教委教育長）
 - いわき市錦町鳥居西七四番地の三
- ◆ 勲四等旭日小綬章
 - 田中 平作（元会津高等学校校長）
 - 会津若松市南町字若葉町六七五の二
- ◆ 勲五等双光旭日章
 - 鈴木 五郎（元白河中央中学校長）
 - 白河市字立石一六六番地の二
- ◆ 勲五等双光旭日章